



● 地域提案型

平成19年度 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	ウガンダ共和国
2. 事業名	ウガンダ野生生物保全事業
3. 事業の背景と必要性	<p>地球規模での環境破壊の影響などで野生動物を取り巻く状況は厳しさを増しており、野生動物が豊富なウガンダ共和国においても例外でなく、国内外からの保護活動および保全思想の普及などの支援が必要な状況がある。また、現代の動物園は、希少動物の保護繁殖、環境保全意識の啓発に重点が置かれるとともに、世界的なネットワークや協力を通じて、相互の技術移転や意識向上を行うことが重要事項と世界動物園水族館保全戦略2005において謳われている。</p> <p>横浜市で開催された2008年5月「第4回アフリカ開発会議（TICADIV）」を機に、野生動物保護および野生動物を介した環境教育活動を行っている機関であるUWEC等に対し、横浜市が野生動物飼育繁殖技術および環境教育活動支援の協力事業を実施することが決定。対象機関であるUWECは、環境保全活動の重要性を認識しているものの、保全教育及び環境教育などで改善が必要であり、レジャー施設としてみられがちな動物園の本来活動の理解向上を図るべく、本市動物園の持つ知見やノウハウの提供が重要である。</p>
4. 事業の目的	UWECの活動に対して、本市動物園の技術移転を図り、同センターの野生動物保全活動に関する技術水準の向上と環境教育活動の充実について支援することにより、ウガンダ共和国の生物多様性の保持に寄与し、環境保全に対する国内外の意識向上に努める。
5. 対象地域	ウガンダ野生生物教育センター（UWEC）
6. 受益者層	ウガンダ共和国国民
7. 活動及び期待される成果	横浜市動物園より専門家の派遣及び本邦研修を実施し、教育プログラムの開発、飼育繁殖技術・獣医診療技術の指導を行う。それにより、UWECがウガンダの野生動物保全活動の拠点となり、自ら自国の希少動物の繁殖について取組みはじめることが期待される。また、多彩な教育プログラム開発が行われ、動物園が楽しみながら学べる場所となる。更に、野生動物の保全や環境保全に関わる環境教育活動を促進することにより、UWECを訪れる訪問者や地域住民、児童がその重要性を理解する。
8. 実施期間	平成20年7月～平成22年12月
9. 事業の実施体制	研修員受入及び専門家派遣に関しては、横浜市動物園関係者により専門家チームを結成し、実施する。
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	横浜市環境創造局、財団法人横浜市緑の協会（横浜市）
2. 対象国との関係、協力実績	2008年5月に横浜市にて開催の第4回アフリカ開発会議（TICADIV）開会式典において、ウガンダ共和国代表者、横浜市、JICA間で本事業に関する合意書を締結。